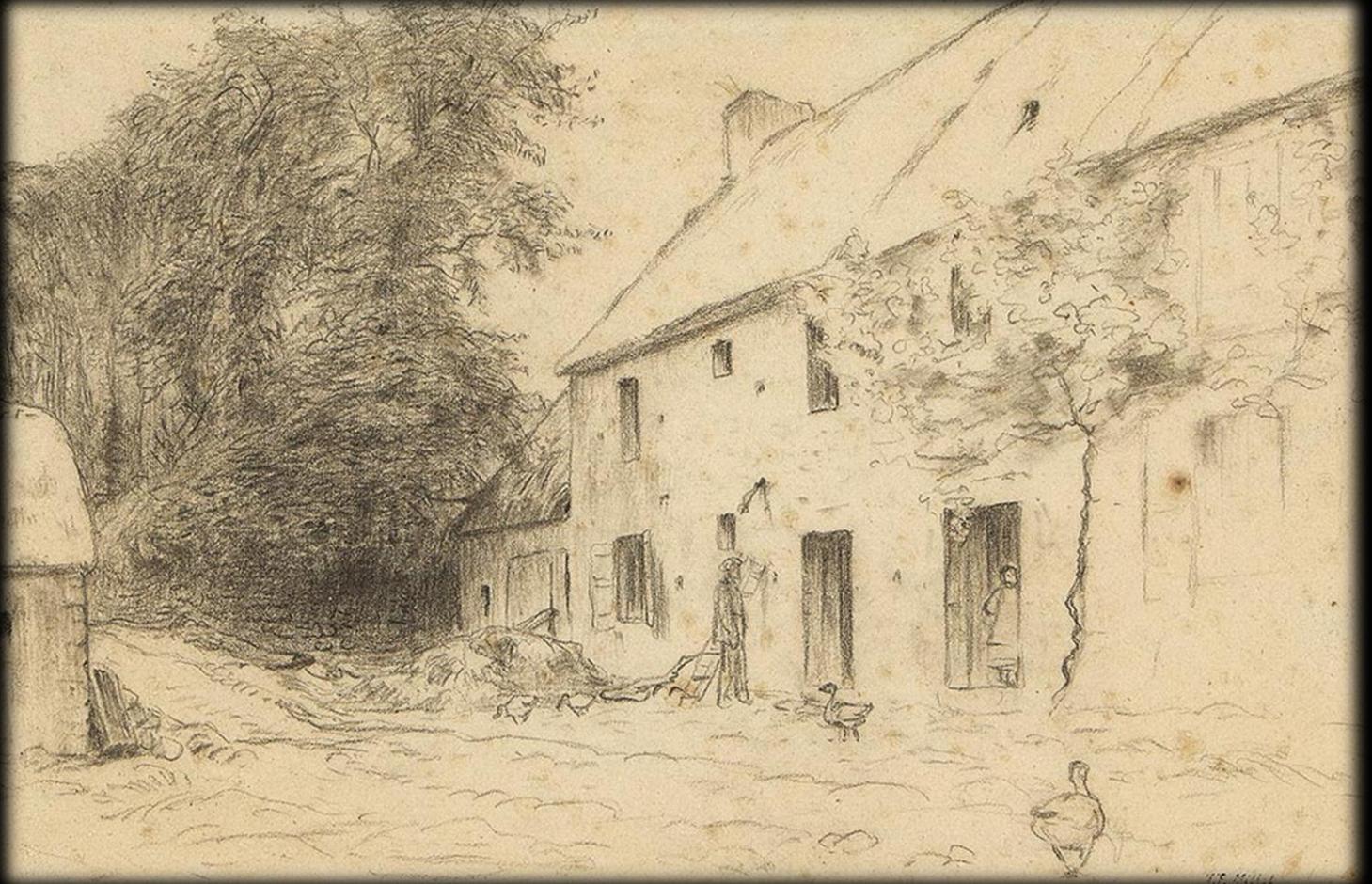


JEAN-FRANCOIS MILLET

ジャン=フランソワ・ミレー(1814~1875)



グリュシーの農家(ミレーの生家)

鉛筆デッサン(ドローイング)

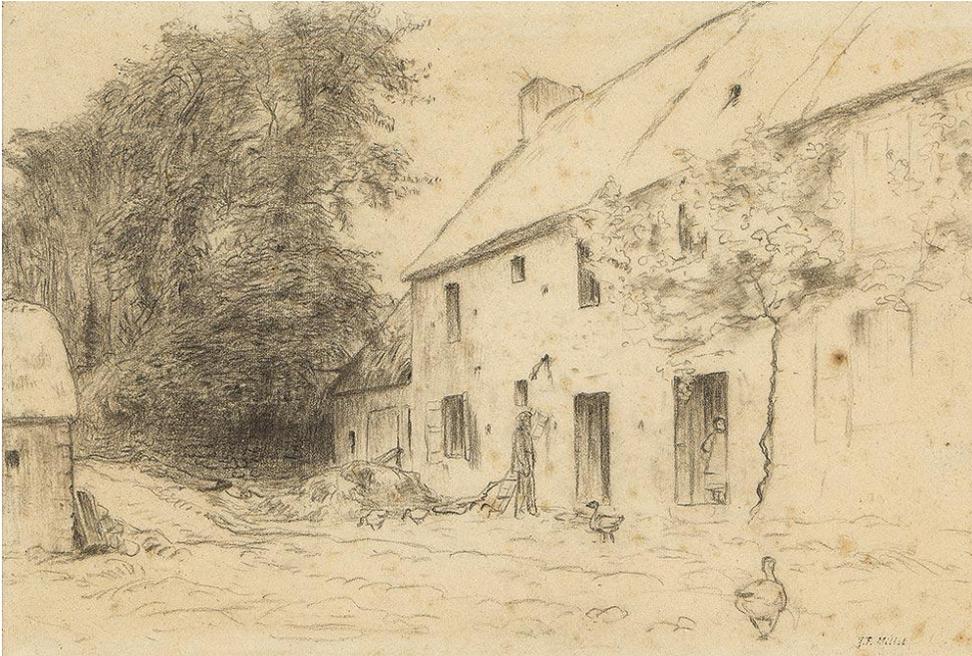
33.0×44.0cm

1864年作

バルビゾン派七星・真の農民画家

JEAN-FRANCOIS MILLET

ジャン＝フランソワ・ミレー (1814～1875)



作品名 グリュシーの農家(ミレーの生家)

種類 鉛筆デッサン(ドローイング)

サイズ 33.0×44.0cm 1853年作

山梨県立美術館ミレー誕生200年展出品作品

Claude Aubry 鑑定書在り。

略 歴

- 1814 ノルマンディ地方、グリュシーの裕福な農家に生まれる。
- 1837 ラングロワの推薦によりシェルブール市の奨学金を得てパリへ
- 1840 友人の父を描いた肖像画『ルフラン氏の肖像』がサロンに初入選
- 1846 後のバルビゾン派のトロワイヨン、ディアズ、ジャック、ルソーらと出会う。農村をテーマとした新しい作風に変化していく
- 1853 サロンに『種をまく人』を出品
- 1855 パリ万博に『接ぎ木する人』を出品し好評
- 1856 エッチング作品を制作
- 1857 サロンに『落ち穂拾い』を出品
- 1859 依頼により『晩鐘』を制作。
- 1862 パリ公会堂での美術家連合サークル展に『井戸から戻る女』を出品し評判となる
- 1864 『羊飼いの少女』がサロンで一等賞を受賞 ミレーの生家を故郷で描く。
- 1868 レジオン・ドヌール勲章を受章
- 1870 既に米国に収集家があり、デュラン＝リュエルが主要画商となる
バビルゾンにて死去。友人ルソーと墓地を隣にして埋葬
- 1875

この作品はミレーが家を出てから1853年4月母死去、約10年ぶりに故郷のグリュシーに戻った時に描いた作品です。

来歴 1894年4月24日-25日N042としてオテル・ドゥロー。パリにてミレー未亡人の売り立て。山梨県立美術館・誕生200年ミレー展出品。

Claude Aubry 鑑定書在り。

ミレーにとって、極めて重要な作品です。